

教員養成段階における保健体育科「保健分野」の 授業力の形成に関する一考察 －授業観察における視点の変化に着目して－

宮坂雄悟*¹ 中川麻衣子*²

1. 研究の背景と目的

現在、わが国の教員養成における大学の教職課程の機能として求められているのは、「教員としての最小限必要な資質能力」（教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力）の保証とされている¹⁾。それに応じた大学の教職課程の改善・充実に向けて、「教職実践演習」の新設、また実習校と大学が連携した教育実習の改善等、教員養成に関する新たな改革が進められているが、教科指導に関する実践力の向上に向けた授業方法としては「模擬授業」を取り入れることが適切とされており、保健体育科の教員養成においても多くの実践報告がされている²⁾¹⁾。しかし、そうした報告における授業対象の多くは体育分野に関するものであり、保健授業に関する力量形成に焦点をあてた研究はいまだ十分とはいえないことが指摘されている²⁾。また、小中高等学校における保健授業の低調さも指摘されており³⁾、保健体育科教員の保健分野に関する授業力については、教員養成段階に限らず大きな課題があるといえる。

教員養成段階における保健分野の授業力に関して、岩田⁴⁾は模擬授業を通じた学生の「省察」の内容について「教師の態度」、「授業の計画」、「授業の実施」の3つに大別できることを事例的に検証している。また、高井⁵⁾は授業観察における振り返りの視点に着目し8回の模擬授業を実施し、学生が授業観察を通して気づいたことを自由記述し、その振り返りの内容を5つに分類している。こうした先行する研究は、保健分野に関する授業力を検討する上で、模擬授業を通して、「学生が授業の何を見て

いるのか」に着目していると考えられ、授業力を構想・実施・振り返り（省察）・次の構想、といういわゆるPDCAサイクルと捉え、教員養成段階における授業力として振り返りの視点の広がり的重要性を指摘していると考えられる。しかし、これらの研究では振り返りの視点の分類はされているが、授業観察を通して教員養成段階にある学生の授業を振り返る視点がいかに変化していくのか、つまり授業力がいかに形成されていくのかというプロセスについては十分に明らかにされていないといえる。そこで本研究では、保健体育科の教員養成段階における保健分野の授業力の形成に関して、授業観察における視点の変化を明らかにすることを目的として調査を実施した。

2. 研究方法

2.1 調査の対象と方法

調査は2014年9月から12月に行った。調査対象者はO県K大学の体育系学科に所属する保健体育科教員免許取得希望学生40名（第3学年、男子23名、女子17名）である。大学の保健体育科教員免許に関する授業（「保健体育科教育法B」）において模擬授業を実施し、対象者は授業観察後の気づき（良かった点、工夫が必要だと思われる点など）を振り返りシートに自由記述した。

2.2 模擬授業の実践までの過程と実施方法

対象となった授業の計画は以下の通りであり、保健分野の模擬授業に関する内容は全7回（全15回の残り8回は体育分野の内容）であった。

- 第1回 保健分野の目的と内容および授業の実際
- 第2回 保健模擬授業のビデオ視聴と指導計画の作成

*1 尚美学園大学 総合政策学部 ライフマネジメント学科

*2 川崎医療福祉大学 医療技術学部 健康体育学科

（連絡先）宮坂雄悟 〒350-1110 埼玉県川越市豊田町1-1-1 尚美学園大学

E-mail: yugo1844@hotmail.com

- 第3回 指導計画の作成
 第4回 模擬授業【第1回】
 第5回 模擬授業【第2回】
 第6回 模擬授業【第3回】
 第7回 まとめ

模擬授業の実施方法は10名ずつの4グループに分け、それぞれのグループ内で順番に授業者（2名）を担当し、残りの学生は生徒役として授業を受けながら授業観察を行った。模擬授業の指導計画の作成は授業者2名が共同で行った。1コマ（90分）に2つの模擬授業の観察を行い、同様の方法で合計3回実施した。

2.3 振り返りシートとその分析手順

学生全員が各模擬授業について、「良かった点」、「工夫が必要だと思われる点」等の自由記述を行った。なお、本授業は振り返りシートの記述後に協議会を行っており、「協議会後の気づき」による記述は別紙に記入され、本研究の対象外とした。つまり、本対象は、「模擬授業観察後の個人の気づき」とした。記述された内容についての分析は以下の手順の通り行った。

振り返りシートに記述された内容を一文ごとに区切り、KJ法¹⁶⁾を用いて分類した。なお、分類は保健体育科教育を専門とする研究者2名で行った。

模擬授業のリフレクションを扱う文献を検討したところ、本分類が体育科の模擬授業におけるリフレクションシートの開発を行っている岩田ら¹⁷⁾の提案するカテゴリー（授業計画、授業運営、教授行為、教材の内容と工夫、その他）と類似していることから、これに沿って分類を行った。ただし、岩田らの研究は体育分野であることに対して、本研究は保健分野であることから、分類項目が一致しないものが

いくつかあり、議論を重ね、岩田らがあげるカテゴリーについては、本研究においては以下のように意味づけを行った(表1)。分類における基準としては、「B) 授業の計画・運営」は模擬授業の観察を通して、主に事前の計画段階に関する評価や感想に関する記述、「C) 教授行為」はその場の実践における振る舞いや言動に関する記述、「A) 授業の目標と学習成果」はいわばB(事前の計画)およびC(その場の実践)の観点を共に含み、授業の方向性や学習成果に関する記述を分類した。また「D) 教材」は指導および学習を円滑に進めるための用具(モノ)に関する記述、「E) その他」はA～Dに含まれない記述とした。

2.4 模擬授業実施前後における授業担当教員の関与について

上述した授業計画に沿って、模擬授業の事前事後の指導を授業担当教員が行った。最初の2回の講義では、中・高等学校における保健分野の授業に関して、学習指導要領に則って目標や内容についての整理をした上で、教員の経験に基づく実際の保健授業の実態また他大学の学生による模擬授業の映像を視聴し、授業実施のイメージをつかむことを目的とした指導がなされた。また、30分間の模擬授業の実施に向け、学習指導案の作成の仕方について指導がなされた。指導計画の立案においては、「授業を通して何をを目指すのか(目標の設定)、その目標達成に向けてどのようなことを具体的に学ぶのか(学習内容の選定)」について明確にすることが特に強調され、全体指導とともに必要に応じて個別指導が行われた。各3回の模擬授業後はグループ別に15分程度の協議会を実施した。協議会は、模擬授業を観察して感じたことを気軽に話し合えることを意図して、基本的に学生のみで実施した。協議会の司会および

表1 振り返りの視点のカテゴリーと分類例

カテゴリー	内容	実際の記述と分類例	
A) 授業の目標と学習成果	目標の明確化、学習内容の適切さ、目標に向けての学習成果等	「3つの大事なことがよくわかった」	「一番大切な避妊に関する部分がうすいのは不十分だと思う」
B) 授業の計画・運営	時間配分、学習形態等	「内容のつながりが良かった」	「グループワークが含まれていて良かった」
C) 教授行為	雰囲気作り、指示、説明、フィードバック、巡視、板書等	「視線が下がっている時間が多い」	「ハキハキと話していて良い」
D) 教材	学習を補助・促進する用具等	「補足資料があってわかりやすい」	「板書でカードを使っていて見やすい」
E) その他		「パッチテストのゴミの指示がない」	「大事なところはテストに出すといったほうが良い」

記録については、授業担当教員が各グループに対して、模擬授業実施担当ではない学生を順番に指定した。記録担当の学生は協議会の内容を記述し授業担当教員に提出した。各グループにおける協議会の記録を元に、授業担当教員は、次時の導入時（模擬授業の実践前）において、学生全体に対して、他のグループでどのような観点で話し合いが行われているのかについての情報の共有を行った。

3. 結果と考察

3.1 振り返りの視点の傾向

学生による模擬授業観察後の自由記述の総数は、597文であり、第1回167文、第2回186文、第3回244文であった。記述の数は回を重ねるごとに多くなり、授業観察を重ねることにより、気づきの量的な変化が起きることが予想できる。カテゴリ別の割合は、「C)教授行為」が57.1%と半数以上をしめる結果となった(図1)。授業観察後の学生による振り返りの内容を分類した高井¹⁵⁾の調査においてもほぼ同様の内容のカテゴリである「授業技術」に関する記述が全体のおよそ6割を占めており、同様の傾向を示したと考えられる。また、「A)授業の目標と学習成果」、「B)授業の計画・運営」は合わせて全体の2割程度となっており、授業観察を通して学生が振り返る視点は、教師の振る舞いや板書といった「(実

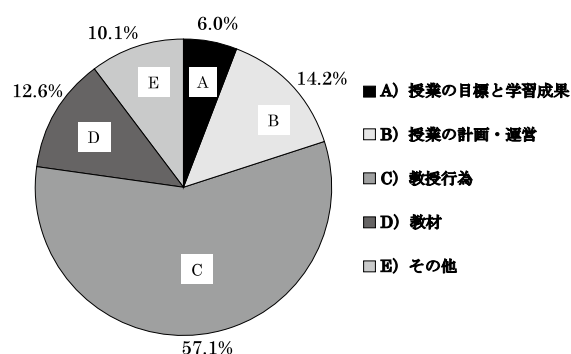


図1 全3回の模擬授業観察後の振り返りシートに記述された内容

際に)見える部分」に偏重しており、その授業がいかにかに構想されているかというような準備や計画、授業の方向性や学習成果に関わる「見えづらい部分」への気づきや評価は少ないといえる。米沢¹⁸⁾は教育実習後の教職志望学生と初任者の教師としての力量形成に対する意識を比較検討しており、「子どもの実態を踏まえた指導案を立案できること」、「一時間の授業のねらいを明確にして学習指導ができること」について、教職志望学生の意識が初任者よりも有意に高かったことを報告している。これらの項目は本調査の「A)授業の目標と学習成果」、「B)授業の計画・運営」と類似した内容であることを踏まえると、本調査の対象者が教育実習をまだ経験していない学生であり、教員養成のまさに初期段階にある学生に特有の視点の偏りが考えられる。

3.2 振り返りの視点の変化

次に、模擬授業を観察後に記述した振り返りシートの内容が、3回の模擬授業を重ねることでのどのような変化があったかを整理する(表2)。

全3回を通じて、「C)教授行為」の記述数が最も多いことには変化はなく、その割合も5~6割程度と一定といえる。しかし、「A)授業の目標と学習成果」、「B)授業の計画・運営」はそれぞれ回を重ねるごとにその総数は増加しており、全体の割合でも大きく変化している。「C)教授行為」が模擬授業において教師としてどのような指導を行っているか、また教授技術を用いているかといういわば観察者にとって目の前にいる教師役の学生の振る舞いに関する記述である一方で、「A)授業の目標と学習成果」、「B)授業の計画・運営」はその教授行為がどのような事前の計画から生じているのかという教師の指導の背景となる要因を含むものとして区別することができる。「A)授業の目標と学習成果」、「B)授業の計画・運営」の合計は第1回時の13.8%から第3回時には27.9%と倍増しており、このことはつまり、模擬授業に対する振り返りの視点の変化として、徐々に、その授業がどのような方向性に向かっているの

表2 模擬授業観察後の振り返りシートにおける記述数とその割合

	第1回		第2回		第3回	
	記述数	(割合)	記述数	(割合)	記述数	(割合)
A) 授業の目標と学習成果	3	(1.8%)	8	(4.3%)	22	(9.0%)
B) 授業の計画・運営	20	(12.0%)	24	(12.9%)	46	(18.9%)
C) 教授行為	107	(64.1%)	103	(55.4%)	136	(55.7%)
D) 教材	20	(12.0%)	33	(17.7%)	22	(9.0%)
E) その他	17	(10.2%)	18	(9.7%)	18	(7.4%)
合計	167	(100%)	186	(100%)	244	(100%)

か、また学習成果に対して評価する視点が形成されている可能性があるといえる。

3.3 「C)教授行為」の質的な変化

全3回を通じてもっとも多い記述がされた「C)教授行為」についてもその記述の内容について質的な変化が確認できた。学生による記述において、例えば授業者の発話に関して「声が大きかった」、「ゆっくりと話していて聞きやすかった」、また板書に関する記述としては「きれい」、「色が見にくい」などがあった。しかし同様に発話や板書に関する記述であっても、「大事なところを強調して話してわかりやすかった」、「学習カードのどこに何を書けばいいかが黒板でわかりやすかった」など、その教授行為が単に教師の振る舞いにとどまらず、その行為を生徒の学習に対する効果や成果との関連で記述されたものもあった。

「C)教授行為」に関する記述を〈単に教師の振る舞いに関する記述〉、〈教師の振る舞いと生徒の学習を関連させた記述〉で区別すると後者の割合は第1回時には107文中22文であり20.6%であったが、第3回時には136文中56文であり41.2%と大きく増加した。

4. まとめ

本研究では保健体育科の教員養成段階における保健分野の授業力の形成に関して、授業観察における視点の変化を明らかにすることを目的として、3回の授業観察を通して、学生はどのような視点から授業の振り返りを行うのか、そしてその視点は回を重ねることでいかに変化していくのかを調査した。主な結果は以下の通りである。

- (1) 教員養成の初期段階にある学生の授業観察における視点は、「C)教授行為」に関するものが中心である。
- (2) 「A)授業の目標と学習成果」、「B)授業の計画・運営」に関する記述は回を重ねることで増加しており、振り返りの視点の変化として、その授業がどのような方向性に向かっているの

か、また学習成果に対して評価する視点が徐々に形成されていく傾向にある。

- (3) 「C)教授行為」においてもその記述内容には質的な変化があり、単なる教師の振る舞いから、その教師の行為がいかに生徒の学習と関連しているかを合わせて考え、教授行為の意図や効果を振り返る視点が形成されていく傾向にある。

これらの結果から、授業観察を通して学生が振り返る視点は、先生の振る舞いや板書といった「(実際に)見える部分」が中心的であるものの、授業観察を重ねることで、徐々にではあるがその授業がいかに構想されているかというような準備や計画、さらには授業の方向性や学習成果に関わる「見えづらい部分」への気づきが振り返りの視点として形成されていくと考えられる。

こうした傾向は教員養成の初期段階にある学生において、先に述べた模擬授業に関する先行研究の結果からも推測ができる範囲の変化といえるかもしれない。しかし、本研究において調査対象となった大学の授業における模擬授業の実施・観察の事前指導の内容として授業担当教員により強調されたことが、「授業を通して何をを目指すのか(目標の設定)」、そして、その目標達成に向けてどのようなことを具体的に学ぶのか(学習内容の選定)」についてであったことからすると、そうした視点から学生が授業を振り返り、さらには構想していくことの必要性や意義を感じるには、学生にとってある程度の時間が必要であり、学生の授業力の段階にあったシラバスの検討が必要となりうるということが考えられる。

最後に、今回の調査は短期間における変化を検討したものであり、養成段階の学生の授業力の変化をより正確に明らかにしていく上では多くの課題が残っている。振り返りの視点の変化の契機に関する質的な分析、さらには長期的な調査及び対象者の増加、また対象者の属性(卒業後の進路として教員を第一希望にしているのか、など)に対する考慮など、今後の継続的な調査が必要である。

文 献

- 1) 文部科学省中央教育審議会：今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)、2006
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm, (2015.4.23)
- 2) 岸本肇:マイクロティーチングによる体育授業の体験学習の効果に関する研究. 神戸大学発達科学部研究紀要, 2(2), 195-202, 1995.
- 3) 糟谷英勝:教科専門科目と教育実習を往還する教科教育カリキュラムの工夫-「体育科指導法演習」を事例として-. 教育実践研究, 信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 7, 91-100, 2006.
- 4) 福ヶ迫善彦, 坂田利弘:授業省察力を育成する模擬授業の効果に関する方法論的検討. 愛知教育大学保健体育講座

- 研究紀要, 32, 33-42, 2007.
- 5) 木原成一郎, 村井潤, 坂田行平, 松田泰定: 教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究. 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第一部, 学習開発関連領域, 56, 85-91, 2007.
 - 6) 木原成一郎, 日野克博, 米村耕平, 徳永隆治, 松田恵示, 岩田昌太郎: 教員養成段階で行う体育の模擬授業の効果に関する事例研究-テスト映像を試聴した学生が気づいた体育授業の要素-. 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第一部, 学習開発関連領域, 57, 69-76, 2008.
 - 7) 藤田育郎, 細越淳二: 体育科模擬授業における学習成果の検討. 国士館大学体育研究所報, 27, 79-86, 2008.
 - 8) 松田泰定, 木原成一郎, 村井潤, 坂田行平: 運動指導の力量形成を視点とした模擬授業の検討(その2). 学校教育実践学研究, 14, 13-19, 2008.
 - 9) 徳永隆治: 模擬授業による体育授業づくりの意識形成に関する事例的研究. 安田女子大学紀要, 37, 197-207, 2009.
 - 10) 藤田育郎: 大学における模擬授業の手法とその成果. 日本体育科教育学会編, 体育科教育の現在, 創文企画, 東京, 239-252, 2011.
 - 11) 日野克博, 谷本雄一: 大学での模擬授業の経験が教育実習における体育授業の省察に及ぼす影響. 日本体育学会大会予稿集, 59, 240, 2008.
 - 12) 嘉数健悟: 保健体育教師を志望する学生の保健授業観に関する研究. 学校保健研究, 56(5), 376-382, 2014.
 - 13) 森昭三: 学校保健学に何を期待するか-パラダイムの再検討-. 学校保健研究, 39(5), 382, 1997.
 - 14) 岩田英樹: 教育研究最前線 保健の授業で思考力・判断力を育成するための指導方法の工夫. 初等教育資料, 853, 74-77, 1997.
 - 15) 高井聰美: 保健教育(保健学習)における模擬授業の効果. 関西女子短期大学紀要, 20, 23-28, 2010.
 - 16) 川喜田二郎: 発想法, 中央公論社, 東京, 1967.
 - 17) 岩田昌太郎, 久保研二, 嘉数健悟, 竹内俊介, 二宮亜紀子: 教員養成における体育科目の模擬授業の方法論に関する検討-「リフレクション」を促すためのシートの開発-. 広島大学大学院教育学研究科紀要, 第二部, 文化教育開発関連領域, 59, 329-336, 2010.
 - 18) 米沢崇: 教育実習における教師としての力量形成に対する教職志望学生と初任者の意識の検討. 奈良教育大学紀要, 59(1), 237-244, 2010.

(平成27年5月25日受理)

A Study on the Practical Capabilities for Health Education
in Pre-Service Education
– a focus on a change in a viewpoint of reflection

Yugo MIYASAKA and Maiko NAKAGAWA

(Accepted May 25, 2015)

Key words : health education, teacher education, practical capabilities

Correspondence to : Yugo MIYASAKA

Department of Life Management
Faculty of Comprehensive Policy
Shobi University
Kawagoe, 350-1110, Japan
E-mail : yugo1844@hotmail.com

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.25, No.1, 2015 159 – 164)